

層雲峡ビジターセンター



〔緑岳ガレ場より高根ヶ原を望む・7/14〕

高根ヶ原

大雪山は「北海道の屋根」と言われ、広大な山岳景観を誇り、豊かな生態系が育まれています。

緑岳山頂直下のガレ場は、古い溶岩台地である高根ヶ原から、トムラウシ山へ連なる山々を遠望できる場所として知られています。高根ヶ原の東斜面は雪解けが遅く、例年、七月上旬頃まで白く輝く残雪を楽しむことができます。今年は雪解けが早く、すでに残雪がとても少ない状態になっていますが、真夏、秋の紅葉も、それぞれの魅力を味わうことができるでしょう。



〔昔の高根ヶ原（昭和初期の絵葉書より）〕



〔大雪山国立公園 90周年記念手拭い〕

大雪山国立公園は1934年12月4日に指定され、今年で90周年を迎えます。大雪山らしい風景はたくさんありますが、今回は、「緑岳ガレ場からの眺め」をイメージして、90周年記念として手拭いを製作しました。今年だけの限定販売です。お買い求めはお早めに！（特別価格：900円、販売場所：層雲峡ビジターセンター）

大雪山国立公園指定 90 周年記念特集② 写真でたどる表大雪の移り変わり

日本で最初に出版された大雪山の山ガイド『大雪山 登山法及登山案内』（著：小泉秀雄,1926,大雪山調査会発行）。この本に掲載されている大雪山の写真は、ほとんどが大正 13,14 年に撮影されたもので、モノクロではありますが、今から約 100 年前の大雪山の様子を知ることができます。



① 雲ノ平石室に於ける大雪山夏季大学一行中の登山者
(撮影：1925 年 8 月 19 日)



現在の黒岳石室です。石室に隣接するバイオトイレは 2003 年に建てられました。(撮影：2024 年 7 月 16 日)



② 雲ノ平より赤石川を隔て、烏帽子岳火山を望む
(撮影：1924 年 8 月下旬)



昨年 8 月下旬の雲ノ平。チングルマの綿毛の群生が見事。
(撮影：2023 年 8 月 24 日)



③ 北海岳流出溶岩丘上より雪ノ澤上流左股の大雪山を見る
(撮影：1925 年 8 月 23 日)



北海岳付近の登山道から撮影した雪ノ澤右股と左股。雪の少なさが際立っています。(撮影：2024 年 7 月 16 日)

紅葉谷・花だより(2)

8 月になると、紅葉滝の手前にある柱状節理の岩肌には、漢字の「大」の形をした白く小さな花が現れます。その花の名前は「ダイヤモンドソウ」。5 枚の花びらのうち下の 2 枚が長くなっており、「大」の字に見えることからこの名がつけました。花期が長く、花の少なくなる 9 月初めまで開花し、紅葉谷を訪れる人々の目を楽しませてくれます。



【ダイヤモンドソウ】
(ユキノシタ科)
8月～9月上

【お知らせ】

環境省アクティブ・レンジャー
写真展 ～北の自然の舞台裏～

(日時) 8/1(木)～8/25(日)

(場所) レクチャー室

(内容) アクティブ・レンジャーの皆さんが撮影した、とっておきの瞬間や仕事の様子を写真で紹介します。

※写真展終了後、「大雪山国立公園指定 90 周年記念パネル展」を開催予定です。お楽しみに！

層雲峡ビジターセンター (電話) 01658-9-4400

〒078-1701 北海道上川郡上川町字層雲峡 ウェブサイト <http://sounkyovc.net>